

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790400378
法人名	株式会社ホライズン
事業所名	グループホーム三和
所在地	福島県いわき市三和町渡戸字峠平33番地の1
自己評価作成日	令和5年7月21日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公基センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaiigo-fukushima.info/fukushima/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	令和5年9月14日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目	取 り 組 み の 成 果 1 該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 1 該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐ 1. ほぼ全ての利用者の2/3くらい 2. 利用者の1/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することでき生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	☐ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者本位の介護を目指し、利用者・職員一人ひとりの思いを受け入れ、その人の持っている力を活かしながら、介護する側にもゆとりをもってもらえるような環境作りを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所のある地域の特性や、地域密着型サービスの役割を理解し、事業所もっている介護力や相談対応力を存分に活かした運営をしている。職員の資質向上に積極的に取り組み、ひとりの研修結果を職員全体で共有し、ケアの質を高めるよう取り組んでいる。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己評価		外部評価	
項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営			
自己			
外部			
1	(1) 〇理念の共有と実践 地域密着型サービスの意識をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時に作った理念を共有して実践に繋がっている。	管理者・職員が実践できる理念を作成し、理念を活かすため、利用者に変化や職員の気づきなどがあれば、申し送りを行い、職員間で共有する事で、それぞれの思いの実現や、安心・安全につながる生活ができるように努めている。
2	(2) 〇事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として近所つきあいや地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	散歩の機会などに、近所の方と言葉や挨拶をかわして交流を深めている。	地域の特性を考慮し、日常的に散歩や事業所の行事等で近隣の方との交流を大切にしている。近くの中学校の職場体験を受け入れたり、ボランティアでカラオケや、ハンドマッソーシの方に訪問してもらい、お茶会などの交流を続けている。
3	〇事業所の力を活かした地域貢献 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域の中学校の福祉体験学習で、認知症の理解や支援の方法を学ぶ機会がある。	
4	(3) 〇運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている。	利用者の状況報告をしながら、課題に取り組んでいる。	会議の中で、ヒヤリハットを派山出してもらう事で事故防止につながるという意見をだして貰い、職員の目配り、気配りも増え事故防止につながり、安心・安全な生活がおくれるという理念の実践にも役立っている。参加者を増やし、様々な話題が出されることを期待している。
5	(4) 〇市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の実績を報告し、共有しながら解決に向けて取り組んでいる。	事業所の実績報告で相談したり、感染症対策の物品の提供、各種研修の情報を受けるなど、行政の担当者に積極的に関わってもらえるようにしている。市の担当者が、認知症や現場の状況をしっかりと把握・受け止め、認知症ケアを理解して貰えるよう働きかけている。
6	(5) 〇身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会に参加し、全職員で話し合い、共有しながら、拘束をしないケアに取り組んでいる。	外部・内部の研修に参加し、研修結果を職員間で共有し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ことばの拘束に気づいたときは、どこがいけなかったのか、どうしたらよかったのかを職員に考えて貰い、次につながるようにしている。
7	〇虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、全職員で共有しながら、虐待防止に向け、意識を高めている。	各種研修に参加し、虐待について理解する前と後の参加者の気持ちの変化や、自分自身で不適切なケアをしていないかの気付きがあるかの確認をしている。管理者は、職員のストレスが利用者へのケアに影響しないよう、現場に入り職員とコミュニケーションを図っている。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	研修で学び、今後活用できる利用者がいれば支援します。			
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はやめ直し等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明をし、不安や疑問な点を確認し理解を得るようにしています。			
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所した時や、電話等で、利用者の状況を伝え、意見や要望を聞き入れています。いただいた意見や要望は、事業所内で共有し活かせるようにしています。	意見箱にいただいた意見や要望を解決する事で、互いに信頼関係を築けることはケアの質を高めるためにも良いことだと考えている。意見や要望を伝えてもらえるよう、普段からの意思疎通を大切にし、明るい雰囲気になるように努めている。		
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や管理についての職員の声に耳を傾け、活かしていくことを心がけ、職員の働く意欲の向上や質の確保を図っている。	トイ利用の頻繁な利用者の居室移動について、本人・家族と話し合い実現しています。	利用者の居室のベッドや物の配置について意見が出され、その人の生活や身体状況を配慮した配置になるよう改めて検討している。職員から資格取得や研修会への参加の要望があったときは、勤務変更などとして参加できるよう取り組んでいる。		
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の実績や、勤務状況について把握し、給料に反映させています。また、働きやすい環境作りにも努めています。			
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を増やし、職員一人ひとりの技術の向上に努めています。	管理者・運営者は、職員の質の確保・向上に向けた育成が不可欠であることを理解し、積極的に資格取得や研修に参加して貰っている。一人の研修の機会を全員職員が共有できるように、研修内容を報告する機会を作り、学んだ事を実践に結び付けられるようにしている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流のある施設と、研修や情報交換、ネットワーク作りでお世話になっており、今後も充実させたいです。			

自己 外部	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりを努めている	サービス開始する前にしっかりと話をし、要望等に耳を傾け安心できるよう努めています。			
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場として、疑問や要望等を聞き入れて、関係づくりに努めています。			
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームという選択がベストなのか、今までの状況の経過を家族や関係者等と話し合っています。			
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共に支えるという形で本人を支援しています。			
19	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に支えるという形で本人を支援しています。			
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会が困難な時であっても、時間短縮したり、距離をとり、マスク着用で対応をし、これまでの関係が途切れないようにしています。	親戚が経営している理髪店や以前住んでいたアパートに出かけてみるなど、馴染みの方や場所との関係を継続できるようにしている。友人・知人と電話や手紙でのやり取りを支援し、その人がこれまで関わってきた人とのつながりを大切にしている。		
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、良好な関係が継続できるよう支援しています。			

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの地域資源を把握し、有効に楽しめるように努めている。			
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を最優先とし、かかりつけ医へは、職員が基本とし、受診する内容によっては家族に協力してもらう体制をとっている。受診結果は職員と家族間で共有している。	協力医療機関とは常時、協力体制がとれるようになっている。歯科や耳鼻科などの専門診療科目への受診も基本職員が対応しているが、必要あれば家族の同行をお願いすることがある。受診結果は電話で連絡し、共有できるようにしている。		
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化や気づきがあれば、速やかに訪問看護師と連絡をとり、指示を仰いでいる。また、普段から相談や報告をしている。			
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院設備があるため、入院中の状態や、経過、主治後の方針を含めて、相互に情報交換できる関係である。			
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービズ開始時に、重度化と終末期の対応について、できる事、できない事を説明し、同意を得ている。本人と家族の意向を重視しながらも、適切な対応が図れるよう努める。	重度化や終末期には、事業所としてできることとできないことを伝え、状況に応じその都度確認し対応するようにしている。医療機関には、家族の意向を確認し伝え、連絡を図るようにしている。終末期対応後の職員には、心情を理解し、ストレスにならないようケアしている。		
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の訓練は全職員が講習を身につけている。			
35	(13) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、昼想定、夜想定で実施している。職員の身につけや、利用者の意識付けを目標にしたい。	消防署や地域の方の協力や参加を得て、合同訓練をしたことがある。訓練後、消防署から動けるようにとのアドバイスを受けている。職員は、年に一度以上訓練に参加できるようジャンプの調整などを行っている。		

自己評価	外部評価	外部評価	
		自己評価 実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人、家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、関係性を大切にしながら、必要に応じて利用者や家族の相談や支援ができるようにしています。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23 (9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、関係者で本人の視点に立って意見を出し合い、話し合っている取組を心がけている。	日々の関わりの中で、声掛けや動作からその人の思いを把握するようにしています。	居室で一对一で話すときや入浴の機会に、思いや意向を聞く機会が多い。家族に連絡がたいなど、その人の思いに寄り添い実現できるようにしている。把握した思いや以降は、職員間で共有し、ケアに役立てるようにしている。
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、関係者に生活歴やこれまでの経過等についての情報収集を行っています。	
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人との会話や、職員からの情報も含めて現状把握に努めています。	
26 (10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人にあつた個別のぐたいきな介護計画を作成するようにしています。一人ひとりの持つ力を、できるだけ維持できるようにしています。	その人のできることとできないことを把握し、持っている力を活かしたり、維持できるように計画している。計画について本人と話し合い、意向やアイデアを反映させている。状況の変化に応じて見直しが必要なときは、本人や家族に説明し、同意を得るようにしている。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録から職員間で情報共有し、よりよい支援の方法の模索をして、介護計画の見直しに活かしています。	
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応すべく、柔軟な対応をしています。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、目立たず、さりげない誘導で居室で対応している。	消防署や地域の方の協力や参加を得て、合同訓練をしたことがある。訓練後、消防署から動ける利用に、他の利用者を連れて避難してもらった。このアドバイスを貰っている。職員は、年に一度以上訓練に参加できるようシフトの調整などを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を尊重し、なかなか表現できない方に対して、思いを出せるように努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースを優先し、希望に応じた生活リズムになるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している	理美容や洋服の選択なども、本人の意向を重視し、生活感がある、おしやれができるようにしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている。	味付けや、食事の準備、片付けなど、できる事はお願いしている。	メニューは、利用者にも食べたいものを確認したりしながら、肉や野菜等のバランスやカロリーを考えながら旬の食材を用いて作成している。利用者一人ひとりがゆとりをもってその人のペースで食事ができるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのよい食事を提供している。また、一日の食事量と水分量を把握している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方の力に応じた口腔ケアの支援を毎食後行っている。			

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のバリエーション、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄バリエーションを把握し、日中はできるだけトイレで排泄できるようにしている。	できるだけおむつを外して、トイレで排泄できるよう取り組んでいる。職員は、自立に向けて一人ひとりの状況を把握して、その人に合ったトイレ誘導をしている。失敗しても、周りの方に気づかれないよう、さりげない対応をし、失敗の原因を検討している。		
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物や運動で、できるだけ自然に排泄できるようにしている。			
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一番風呂希望の方が重ならないよう工夫したり、入浴剤を用いて楽しんで入ってもらえるようにしている。	時間や人数の制限はあるが、出来るだけこれまでの生活習慣を尊重した入浴時間になるようにしている。嫌がる人には時間や職員を替えて対応している。ヒートショックを防ぐため、脱衣所と浴室の温度差をなくすようにしている。		
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の体調やペースに合わせて休息できるようにしている。			
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの薬の内容や副作用を理解できている。また、きちんと服薬できているかの確認も行っている。			
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの役割について、日常生活の中でできることや、やりたい事を実施してもらい日々生活している。			
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には外の空気に触れてもらうようにしている。外泊や外出なども家族の方の協力を得て行っている。	外の空気や光を浴びることの意味や役割を考慮し、車いすでの散歩や外で体操したことがある。近くの公園などに、車で出かけている。季節を楽しんだり行事で出かけるときは、トイレの確認をはじめ、安心・安全に出かけられるよう準備している。		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の希望や力に応じ、お金の所持・使用をしている。			
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時々電話のやりとりをしている。			
52	(19) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃・消毒・換気はこまめに行い、温度や湿度の調整をしながら、居心地よく過ごせるよう心掛けていく。	利用者は思い思いに好みの場所があり、居室や共有空間で自由に過ごして貰っている。歩行や移動のための動線を確保するために、床に物は置かないようにしている。インフルエンザなど感染症対策で、予防接種をしたり、体調管理を呼びかけたりしている。		
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られたスペースの中で、独りになったり、気の合う方々と談笑している場所がある。			
54	(20) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。 (グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	自宅で使用していた馴染みの物を持ち込んでいただき、身体状況に合わせて、ベッドの位置を工夫するなど、その人にあった居室作りをしている。	利用者は思い思いに好みの場所があり、居室や共有空間で自由に過ごして貰っている。歩行や移動のための動線を確保するために、床に物は置かないようにしている。インフルエンザなど感染症対策で、予防接種をしたり、体調管理を呼びかけたりしている。		
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内には一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所、居室については、混乱しないような配慮をしており、できるだけ自立した生活が送れる工夫もしている。			

目標達成計画

事業所名: グループホーム三和

作成日: 令和5年9月28日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成 に要する期 間
	1 35(13)	災害時の訓練が身についていない	全職員が災害時に対応できるように身につけたい	備書の確認や、避難ルートの確認、災害マツプの確認等などのできる訓練から行い、職員間で意見を出し合いながらすすめたい	6ヶ月
	2				ヶ月
	3				ヶ月
	4				ヶ月
	5				ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。